

国家公務員共済組合連合会 呉共済病院 腎臓内科 神原 舞

腎臓内科専攻医1年目の神原舞と申します。現在は呉市の呉共済病院で勤務させていただいております。

私は広島県出身で、高校卒業までは福山市で過ごしていました。父親が医師、母親が薬剤師、親戚にも医療従事者が多い環境で育ち、気がついたら医療の世界に興味を持ち始めていたと思います。決して成績が良かった訳でもなく、専ら部活動や習い事をしながら過ごしていた記憶があります。高校に進学し、進路について考えなければならない時期を迎え、将来の夢として、自然と医療従事者が選択肢として浮かびました。家庭環境ももちろん大きかったですが、小学生の頃に祖父を病気で、さらに立て続けに友人を事故で亡くした経験が、私に非常に大きな影響を与えました。突然命が失われるという現実を経験し、「いつかは自分の手で誰かの命を救えるようになりたい」と思い、医師を志すようになりました。

1年間の浪人を経て医学部に合格し、大学進学を機に上京しました。医学部入学から初期研修終了までの計8年間を東京で過ごしましたが、地方出身の私にとっては東京での生活は全てが新鮮で刺激的なもので、多くの学びがありました。多様な価値観に触れ、医療の現場においても最先端の知識や技術に触れることができたことは、現在の私の礎となっていると思います。

診療科を選ぶに当たって、体液管理や電解質管理といった、いわゆる全身管理ができ、加えてPTAやシャント作成、PDカテーテル留置など外科的手技も多くある腎臓内科に魅力を感じました。さまざまな臓器や疾患と深く関わっており、長期にわたり患者さんと関わっていくことができる腎臓内科へ進むことを決めました。

東京でも恵まれた環境と人間関係の中で充実した日々を送っていましたが、いずれは地元の広島で働きたいという気持ちが強く、この度、専攻医になるタイミングで広島大学へ入局することを決意いたしました。知り合いもほとんどおらず、4月はとても緊張していたことを覚えています。現在は、熱心にご指導してくださる先生方、温かく支えてくださる医療スタッフの皆さまに囲まれ、忙しくも非常に充実した日々を送っています。

日々の診療を通して、自身の至らなさを痛感することも多々ありますが、その経験一つひとつが今後の成長につながっていると思います。まだまだ未熟ではありますが、患者さん一人ひとりの人生に寄り添い、信頼される腎臓内科医となれるよう、今後も研鑽を積んでいきたいと考えています。感謝を忘れず、初心を忘れず、少しでも広島の医療に貢献できるよう努力を重ねていく所存です。今後ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしく願いいたします。